しばたの次代デザイン会議　意見交換概要（第9B区）

日　時　：令和8年10月31日(土)　14:00～15:39

会　場　：第9B区集会所

参加者数　：19人

町出席者　：町長、副町長、教育長、総務課長、まちづくり政策課長、財政課長、都市建設課長、健康推進課長





No.	意見等	回答
1	町長の重点施策に高齢者という言葉が見当たらなかった。高齢者が増えている中、町としてどのような高齢者施策を考えているのか。	特に重要なのは、移動手段の確保です。現在の「はなみちゃん号」を含め、通院や買物に利用できる地域交通を充実させることが大きな課題だと考えています。国の施策や補助金、ライドシェアなどの仕組みも含め、町に適した新たな交通網を早急に調査研究します。また、一人暮らしや高齢者のみの世帯に対する見守り、社会福祉協議会、高齢者施設、介護事業者などとの横の連携を具体化していきます。
2	土手内から第9A区を通り、船岡小学校へ向かう歩道は狭く、傾斜や傷みもあるため、杖やシルバーカーを使う高齢者が通行しにくい。改修計画や実施時期を伺いたい。	歩道は昭和40年代頃の基準で整備され、拡幅には沿道の土地所有者の協力が必要ですが、住宅が道路際まで建っているため難しい状況です。現在は側溝改修を優先していますが、歩道を巡回して確認し、危険な箇所があれば部分補修による対応を考えます。
3	船岡城址公園のテニスコート横にある古い建物が景観を損ねている。撤去時期と跡地利用の計画を伺いたい。	青少年ホームは既に用途を廃止し、撤去する方針です。ただし、撤去には多額の費用が必要で、跡地利用も現時点では白紙です。スロープカー完成後の来園状況も踏まえ、跡地利用と財政計画を検討し、見通しが立った段階で撤去時期などの方向性を示します。

No.	意見等	回答
4	土手内地区の指定避難所である町民体育館までは、成人でも徒歩約25分かかり、高齢者が夜間や雨天時に避難することは難しい。地区で訓練に使用している船岡駅2階や東側駐輪場2階を一時避難場所として認めてほしい。また、船岡小学校を避難所として利用できないか。	船岡駅や駐輪場2階を避難所とするには、運営職員を配置できないという人員上の課題があります。一方、住民が自ら考えた避難先について、町から避難しないようにとは言えない面があります。自力避難が難しい高齢者については、共助による対応や垂直避難も含め、地域で危険性を共有していただきたいと考えています。
5	11月29日に火災を想定した訓練を予定しているが、消防署から人員不足のため防災講話などを引き受けられないと言われた。防災・減災には事前訓練が重要であり、今後、消防署へ訓練や講話を依頼できるのか。	消防職員も限られた人員で広い地域を担当しており、これまで行政区へ出向いた職員も非番の日に対応していたと聞いています。働き方の見直しなどの課題もありますが、地域の訓練に対する意欲は重要であるため、今回の意見を消防署へ伝えます。
6	町は電子メールやファクスでの提出を求める一方、行政区側の機器や通信環境は個人負担となっている。情報を受け取る側だけでなく、提出する側の環境も整えなければ、行政のデジタル化は進まないのではないか。	マイナンバーカードの保有枚数率は約87パーセント、町公式LINEの登録者は約5,300人、メール配信の登録者は約1,600人です。紙媒体も残し、デジタルと紙を組み合わせて情報を発信しています。昨年度は船岡公民館で高齢者向けスマートフォン教室を6日間開催しており、今後も機会があればデジタル教室を行います。
7	船迫踏切内に穴が開いており、自転車や歩行者の通行に危険があるため、補修してほしい。	踏切内はJRと町の管理範囲が厳格に分かれています。踏切内の作業には有資格者の見張員が必要で、手配に時間を要する場合がありますが、船岡小学校裏の踏切に関する協議と併せて、船迫踏切の状況をJRへ伝えます。
8	踏切を渡ってすぐの町道では、側溝にごみが入り、高齢者や一人暮らしの方が清掃することが難しいため、側溝に蓋を設置してほしい。	土手内地区の側溝は小さく、今後の大雨に十分対応できない箇所があります。本来は側溝を拡大して蓋を設置することが望ましいものの、町内には約340キロメートルの道路があり、排水に支障がある場所などを優先しています。現況を確認しますが、整備には優先順位があります。

No.	意見等	回答
9	白石川堤防沿いの桜は枯れ枝が目立つ。葉のある時期の方が枯れ枝を見分けやすいため、その時期に剪定してほしい。	毎年、冬季に業者へ委託し、テングス病の除去や大きくなった桜の剪定を10本から30本程度実施しています。冬季は葉が落ち、処分量と費用を抑えられます。ただし、夏季にも町職員が巡回し、必要な箇所があれば直営で枝を落とすなどの対応を検討します。
10	白石川河川敷へ降りる階段に砂がたまり、草も伸びている。東日本大震災時には断水の際の水くみに利用されており、災害時にも必要なため、対岸を含めて草刈りをしてほしい。	河川内の階段や護岸は県の管理です。対岸の北船岡側は草木が繁茂していますが、県には自然保護の観点から全面伐採が難しい事情もあるようです。今回の要望を河川管理者である県へ伝えます。
11	消防団第1分団第6班は、町営住宅の住民にも加わってもらい、ようやく5人で活動している。団員は全員50歳を超え、高齢化しており、班を維持できるか不安である。団員を確保する方法を伺いたい。	町もチラシやポスターなどで広報していますが、地域の方から直接声を掛けることが最も効果的ではないかと考えています。町も消防団、交通指導隊、防犯実働隊などの人員確保に向けた施策を講じますので、地域での声掛けにも協力をお願いします。
12	両親の介護のため町へ戻り、在宅介護を続けている家族は、地域活動へ参加する余裕がない場合がある。介護を担う家族への支援を考えてほしい。	老老介護や8050問題などがあり、町としてどこまで踏み込めるかという課題はありますが、状況を受け止めます。社会福祉協議会などとも連携し、専門家の助言を得ながら進める必要があると考えています。
13	一人暮らしの高齢者が入院や施設入所をする際、飼っている犬や猫を引き取る家族がいないことがある。こうしたペットへの対応も考えてほしい。	町だけでなく、動物愛護団体などとの連携が必要になる可能性があります。担当課へ持ち帰り、今後の課題として研究します。
14	花のまちとして観光客が訪れても、町内にはランチや土産を購入できる場所が少なく、観光客や町民が隣町へ出ている。イベント時の飲食ブース、地域おこし協力隊の活用、外から見える場所への飲食機能の配置などを検討してほしい。	飲食店の減少は、経済面だけでなく町民のコミュニティの場という観点からも課題と認識しています。整備中の図書館周辺ではカフェスペースの計画が一部あり、町として場所を提供することも考えられます。企業進出の可能性や空き物件の活用に関する情報提供、花のイベント時の飲食ブースと情報発信について検討します。

No.	意見等	回答
15	商工会の活動が十分ではなく、地元の生徒と地元企業を結ぶ取組も継続していないと感じる。小中高校から大学へ進み、地元へ戻って就職する流れをつくる上でも、商工会の役割を強化してほしい。	商工会に加入しない事業者が増えている一方、40歳未満の若手で構成する商工会青年部は、総合体育館や船岡城址公園三の丸の催事で飲食物を販売するなどの活動を行っています。
16	新春交歓会を町が主催し、参加者が4,000円を負担する現在の形式を見直し、商工会や企業団体が主催する名刺交換会のような形に変更してほしい。	今回も会費4,000円として開催する予定で、税金は使用しておらず、町職員も自費で参加します。他自治体には商工会が主体となり、会費2,500円から3,000円程度で開催する例があります。現在は商工会で実施できないため町が主催していますが、大学や総合体育館での開催も含め、会場や運営方法を研究します。
17	新しい総合体育館の前を通っても車が止まっていないことがある。体育館の利用状況を伺いたい。	正確な利用率は持ち合わせていませんが、土曜・日曜はほぼ予約で埋まり、駐車場がいっぱいになる場合もあります。平日は利用率が下がるものの、床輻射式暖房が風の影響を嫌う競技に適しており、バドミントンや剣道など、従来なかった大会も開催されています。トレーニングジムは1回300円で利用できます。平日の昼間でも利用者がおり、若い方も多く利用しています。駐車場が広いため、10台程度では空いているように見えますが、館内には利用者がいる場合があります。
18	町は「お金がない」と言うだけでなく、住民の意見を受け止め、地域の廃品回収、農産物販売、落ち葉の腐葉土利用など、地域資源を収入や価値に変える発想を行政運営へ取り入れてほしい。一方、将来の固定費を伴う事業や、一時的なふるさと納税収入を前提とする財政運営には慎重であるべきだ。	今回は財政の厳しさを前面に出さず、まず住民の意見を聞く姿勢で会議を開催しました。職員にも、要望に対して最初から「お金がない」と答えず、まず受け止めて持ち帰り、対応の可否を検討するよう伝えています。財政が厳しい中でも、機会や資源を自ら拾いに行く行財政運営が必要だと考えています。